



ハンターは、目が合えば追ってくる。「ハンター」と呼ばれる鬼から制限時間内逃げ回る大規模鬼ごっこ「逃走中ファイナルステージ」が、10月8日佐伯総合スポーツ公園の野球場で行われた。

ハンターは全部で16人。地域の方や募集が集まったそれぞれが陸上経験者や、現役消防団員など足に自信のある人ばかりだ。大きなサイコロを振ってハンターの目が出ると、ハンターが開放される。スタートからドキドキものだ。

ハンターに捕まるとゲームオーバーだが、最初の数分はミッションをクリアすれば再び参加が可能。また、時間とともにハンターが増えたり、逃げるエリアが狭くなったりと趣向を凝らしている。

悲鳴にも似た歓声を上げ、ミッションをクリアしながら必死に逃げ回る参加者たち。しかし、小学校高学年以上の部になると、ハンターも必死だ。逃走者を追撃する顔は真剣そのもの。

完走者は、幼児の部10人。小学校低学年の部5人。中学生以上の部5人。期待を裏切らない内容に参加者は、「ハンターが怖かったけど、楽しかった」といった感想や、「今回で終わりというのはとても残念です」とファイナルステージを惜しむ声も聞かれた。

ゲーム終了後は軽食や、バザー、ピング大会などで、心地よい汗を流した秋の一日を楽しんでいた。



ハンターが解き放たれた瞬間、ダッシュで逃げる参加者。その楽しさとスリルは、味わった者にしか分からない。

ユアックさいき「逃走中」ファイナルステージ

ヤツらが、また、帰ってきたー

10月8日、ユアックさいき「逃走中」ファイナルステージが、佐伯総合スポーツ公園の野球場で行われた。佐伯地域の総合型地域スポーツクラブである「ユアックさいき」が実行委員会を作り主催。かくれんぼではなく、「大規模鬼ごっこ」。ファイナルステージに参加した幼児から大人までの701人は、秋晴れの下、必死でハンターから逃げ回り、会場では、大きな歓声が鳴り響いたー。



写真_1 過去最多で701人の参加者となった「ユアックさいき『逃走中』」。佐伯総合スポーツ公園は親子連れの多くの人でにぎわった。写真_2・3 ハンターは、陸上経験者や現役消防団員など足に自信のある人ばかり、中にはインターハイ出場選手も。逃げ切るの容易ではない。写真_4 ゲームの途中には、クリアすればハンターの増加が抑えられるミッションも。必死でチャレンジする参加者の皆さん。



ユアックさいき「逃走中」実行委員長
ますだ・みゆき
舛田 美由紀さん

第4回目となり、人気もでてきた「逃走中」ですが、今回で最終回となりました。楽しみながら運動ができるのが一番だと考えていますので、これからも皆さんの意見をお聞きしながら、たくさんの方が参加でき、楽しく運動に親んでもらえるようなイベントを考えていきます。



ハンター
ひらおか・けんたろう
平岡 健太朗さん

ハンターとして初めて参加しましたが、大人の方に苦戦しました。ゲーム感覚で楽しめるこの「逃走中」は、運動から遠ざかっている人にとって、親しみやすいと思います。参加した方が生き生きとした表情で楽しんでいるのを見て、すばらしいイベントだと感じました。

インタビュー ハンターに聞きましたー

インタビュー 完走者に聞きましたー



小学校低学年の部
完走者
やまなか・みさ
山中 未彩さん

ハンターがたくさんいたので、怖かったです。余裕はありませんでしたが頑張って逃げました。疲れたけど、迫力とスリルがあって楽しかったです。



中学生以上の部
完走者
あらい・たかゆき
新井 隆之さん

子どもが捕まったのでリベンジのつもりで頑張りました。何回か捕まりかけましたが、なんとか逃げ切りました。今回で最後というのはとても残念です。

